研　究　組　織

研究代表者	石　田　雅　近 （Ishida，Masachika） ishida-m@seisen-u.ac.jp	清泉女子大学文学部英語英文学科・ 大学院人文科学研究科教授 （Professor，Seisen University）
研究分担者	緑　川　　日出子 （Midorikawa，Hideko） hmidori@swu.ac.jp	昭和女子大学人間文化学部 英語コミュニケーション学科教授 （Professor，Showa Women's University）
研究分担者	久　村　　研 （Hisamura，Ken） DZJ01411@nifty.ne.jp	田園調布学園大学短期大学部 人間文化学科助教授 （Associate Professor， Den-en Chofu University Junior College）
研究分担者	酒　井　志　延 （Sakai，Shien） GAF05744@nifty.com	千葉商科大学商経学部経営学科教授 （Professor，Chiba University of Commerce）
研究分担者	笹　島　　茂 （Sasajima，Shigeru） sasajima@saitama-med.ac.jp	埼玉医科大学医学部講師 （Assistant Professor， Saitama Medical School）

交付決定額（配分額）

（金額単位：千円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成12年度	3,800	0	3,800
平成13年度	3,800	0	3,800
平成14年度	3,300	0	3,300
平成15年度	3,000	0	3,000
総計	13,900	0	13,900

研究発表

⑴ 学会誌等

石田雅近「戦略構想（行動計画）と英語教員研修―課題と展望―」『桜美林シナジー』第２号　平成16年３月31日

笹島　茂「戦略構想と（小・）中・高・大の連携」『桜美林シナジー』第２号　平成16年３月31日

酒井志延「英語教授力の枠組み」『英語教育』第52巻12号　平成16年３月１日

石田雅近「英語教員研修の今後の課題―研修しやすい環境作りと研修内容を中心として―」『全英連会誌』40号　平成14年11月１日

笹島　茂“Current Situation of Secondary EFL Teachers in Japan”*English Language Teaching*（Pan-Korean English Teachers Association）Vol.14，No.２　平成14年11月

石田雅近、緑川日出子、久村　研、酒井志延、笹島　茂“A Comprehensive Study of In-service English Teacher Education in Japan”IATEFL Slovenia（Special Issue）　平成14年９月

緑川日出子「韓国の英語教育視察レポート」『英語展望』　平成12年８月25日

⑵ 口頭発表

石田雅近、久村　研、酒井志延「英語教員が備えておくべき英語力の目標値・英語力をどう授業に生かすか」「英語が使える日本人」の育成のためのフォーラム2004（文部科学省主催）　平成16年３月28日

石田雅近「英語教員が備えておくべき英語力の目標値―『英語が使える日本人』育成のキー・ポイントとして」ELEC 英語教育特別講演会　平成15年12月５日

久村　研、酒井志延「英語授業力の枠組みを求めて―フィールドワークからのアプローチ―」平成15年11月15日

石田雅近、緑川日出子、久村　研「英語教員が備えておくべき英語力の目標値をめぐって」大学英語教育学会第42回全国大会　平成15年９月５日

酒井志延“Problems with Japanese high school mid-term and term-end examinations：A nation-wide study”（Oral）　第13回 AILA 国際応用言語学会　平成14年12月21日

石田雅近、緑川日出子、久村　研、酒井志延、笹島　茂“In Search of In-service EFL English Teacher Training and Professional Development in Japan”（Poster）第13回 AILA 国際応用言語学会　平成14年12月19日

石田雅近、久村　研他“English Teacher Training Curriculum in Japan”（Poster）　第13回 AILA 国際応用言語学会　平成14年12月19日

石田雅近、久村　研、酒井志延、笹島　茂、小泉　仁「現職英語教員の研修実態と課題」大学英語教育学会第40回全国大会　平成13年９月15日

久村　研他「英語科教員養成カリキュラムの諸問題」大学英語教育学会第41回全国大会　平成14年９月８日

酒井志延「英語教員と研修のあり方」全国英語教育学会第28大会　平成14年８月22日

石田雅近、緑川日出子、笹島　茂「アジア近隣諸国の英語教育事情」大学英語教育学会月例会　平成14年５月18日

⑶　出　版　物

石田雅近、緑川日出子他『「英語が使える日本人」の育成のための英語教員研修ガイドブック』平成15年８月30日　開隆堂

久村　研、酒井志延他『中等教育英語科教員養成カリキュラムの諸問題』大学英語教育学会教育問題研究会　平成15年４月15日

石田雅近、緑川日出子、久村　研、酒井志延、笹島　茂『現職英語教員の教育研修の実態と将来像に関する総合的研究』（平成14年度科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）研究成果報告書）』平成15年３月20日　丹精社

石田雅近他『修士課程における「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の内容の連携について―英語科教育関連科目を中心として―』平成14年度文部科学省初等中等教育局委嘱研究・教職課程における教育内容・方法の開発研究事業報告書　平成15年３月20日　十一房印刷

石田雅近、緑川日出子、久村　研、酒井志延、笹島　茂　*A Questionnaire Based Report on the National In-service Training for Teachers of English*. Teacher Education Research Group. Grand-in-Aid for Scientific Research（Japan Society for the Promotion of Science）平成14年12月

石田雅近他『修士課程における「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の内容の連携について―英語科教育関連科目を中心として―』平成13年度文部科学省初等中等教育局委嘱研究・教職課程における教育内容・方法の開発研究事業報告書　平成14年３月20日　十一房印刷

石田雅近、緑川日出子、久村　研、酒井志延、笹島　茂『現職英語教員の教育研修の実態と将来像に関する総合的研究』（平成13年度科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）研究成果報告書）』平成14年３月20日　丹精社

石田雅近、緑川日出子、久村　研、酒井志延、笹島　茂『全国現職英語教員アンケート調査結果』英語教員研修研究会　平成14年３月20日

石田雅近、緑川日出子、久村　研、酒井志延、笹島　茂『現職英語教員の教育研修の実態と将来像に関する総合的研究』（平成12年度科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）研究成果報告書）』平成13年３月20日　十一房印刷工業

石田雅近、久村　研他『新時代の英語教員養成―現状と展望―』大学英語教育学会教育問題研究会　平成12年11月２日

はしがき

平成11年度に発足した「英語教員研修研究会」（Teacher Education Research Group）は、平成12年度科学研究補助金基盤研究（B）の交付を受け、「現職英語教員の教育研修の実態と将来像に関する総合的研究」という研究課題のもとに、平成15年度までの4年間にわたる研究を行ってきた。

この4～5年間に限っても、英語教育改革の動きは目覚しく急速な進展が見られた。まず、教育に対する国民の信頼回復を目指して「教育改革国民会議」が招集され、平成12年12月に最終報告がまとめられた。その教育改革のための施策が、『21世紀教育新生プラン』として平成13年1月に提示されたのが「7つの重点戦略」が示された。これがさらに、平成14年7月の『「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想』として示され、翌年には『行動計画』として具体化した。

この『行動計画』には、日本における英語教育を抜本的に改善する目的で、「英語力・国語力増進プラン」が含まれており、そのうち、特に次の3つの目標が注目される。

⑴ 「学習者のモティベーションの高揚」（年間1万人の高校生の海外留学、平成18年度に実施を目標とした大学入試センターのリスニングテスト導入）、先進的な英語教育を推進する「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール」を100校に拡大）

⑵ 「小学校の英会話活動の充実」（総合的な学習の時間等で英会話活動を行う場合、その3分の1回程度は、外国人教員や中学校等の英語教員による指導を可能にするための支援））

⑶ 「英語教員の資質向上及び指導体制の充実」（英語教員が備えておくべき英語力の目標値の設定、平成15年度から5ヵ年計画で公立の中学・高校の全英語教員6万人に集中的な研修の実施、中学・高校の英語授業に週1回以上外国人が参加できるようにJETプログラム等による外国人教員を11,500人までに拡大、英語に堪能な地域の人材を特別非常勤講師制度等で採用可能）

特に、私共の科学研究補助金研究に直接かかわる具体目標としては、⑶のうち「英語教員が備えておくべき英語力の目標値の設定」と「英語教員の集中的な研修の推進」がある。文部科学省は、平成15年度から平成19年度までの5年間に、「全ての英語教員が、実践的コミュニケーション能力育成のための指導力向上を図る研修を受けるよう、国レベルの研修と合わせ、都道府県教育委員会が行う集中的な研修を支援する」ことを発表し、同時に、この取り組みについては「研修の受講状況は英語教育の改善実施状況調査により把握する」方針も打ち出した。

このような状況を踏まえて、「英語教員研修研究会」では、平成15年度に英語教育史上、未だかつて例を見ない全国規模で実施される「英語教員集中研修」に的を絞り、その研修受講者を対象に「アンケート調査」を行うこととなった。その主旨は、今回の「悉皆研修」が現職英語教員にどのような影響・効果をもたらすのかを

調査し、平成19年度まで継続される「集中研修」のあるべき内容や形態を探り、さらに効果的な研修計画や研修の実施､研修効果を高めるための一助になることを願ってのことである。

今年度は、集中研修受講者に対して全国規模の調査を行ったが、幸い多くの関係団体・諸機関の方々から積極的な協力が得られた。所期の目的を達成することができたことをご報告し、ここに改めて厚く御礼を申し上げたい。特に、文部科学省初等中等教育局国際教育課からは終始ご支援を頂戴した。また、調査協力にご快諾くださった各自治体の教育委員会研修企画担当者に対しては、研修実施の多忙な時期にもかかわらず、研修会場でのアンケート書類の配布、回答用紙の回収・返送等をお引き受けくださったことを心から感謝している。また、平成15年度実施の「研修プログラム関係資料」をご提供くださった教育委員会関係諸氏にも特段の御礼を申し上げる次第である。

アンケート回答データの処理に当たっては、千葉商科大学の学部生の惜しみない協力が得られた。また、清泉女子大学文学部英語英文学科助手渡辺里少氏には、４年間にわたり私共の科研費研究に関する膨大な事務作業を一手に引き受け、労をいとわず処理してくれた。そのお蔭で本研究が円滑に進んだこと特記して感謝の意を表したい。

『研究成果報告書』をまとめるに際しては、研究分担者全員が終始、協同で作業・分析を進め、全28回に渡る会議で意見を交わしながら最終原稿を執筆したため、分担の切り分けが不能である。本報告書は全編にわたり共同執筆であったことを申し添えておきたい。

平成16年３月20日
石田　雅近

目　次

研　究　組　織 …… 1

は　し　が　き …… 4

Ⅰ　研究経過 …… 7

Ⅱ　調査目的 …… 9

Ⅲ　調査方法等…… 10

Ⅳ　結果⑴―アンケート（多肢選択）結果―…… 11
1．アンケート結果の概要…… 11
2．「研修直後」のアンケート結果 …… 21
3．「研修２ヶ月後」のアンケート結果 …… 33

Ⅴ　資　　料…… 45

Ⅵ　結果⑵―研修直後のアンケート（自由記述）―1,369人の先生の声 …… 65
1．行く前は不安だった。でも行ってよかった…… 66
2．知恵の実もらった…… 67
3．仲間に出会えた。仲間が教えてくれた…… 77
4．元気の素もらった…… 80
5．反省しています…… 83
6．背中を押してもらった…… 87
7．また、参加したいんですけど…… 106
8．この研修、誇りに思います…… 109
9．やっぱり、テストは…… 110
10．ありがとうございました…… 113
11．こうしたらどうでしょう…… 120
12．意見を聞いてください…… 143
13．私の悩みを聞いてください…… 151
14．こんな願いを聞いてくれたら…… 151
15．このアンケートについて…… 155

Ⅶ　研修プログラム紹介…… 157